

SPRING 2020

## フレンズシップ

## 「禍い転じて福となす」

皆さまいかがお過ごしでしょうか。

3月中旬から始まった新型コロナウイルスによる世の中の活動停止状態の中、各ファミリーでは如何にご家族の精神、肉体を正常に保つかに苦勞されているのではと思われまます。その中でニューヨーク育英学園の先生達は Zoom や Meet などミーティングを重ね、4月1日よりオンラインでの保育、授業を行なっています。

創立以来40年間、色々なことがありました。突然の丹羽美代子学園長の他界、同時多発テロ後の園児減少、リーマンショックや現学園舎の改修工事と引っ越しなど多くの難局がありました。学園ではその度に全職員、保護者の皆様、コミュニティの方々のご協力を得て乗り切ってきました。

「禍を転じて福となす。」と言います。コンピューターを使つての新しい試みですが、子ども達にもこの経験を通して大きな「福」を手に入れて欲しいものです。

右に創立当時のニュースレターがあります。ここに載っている子ども達は、もう40代になっていますがその当時の熱気を思い出します。「日本語教育にはまず歌から」と、どの園児も歌詞カード無しで、100曲以上の童謡を歌うことができていました。今の様な校舎もなく、教員も充分にはいませんでしたがコミュニティに根差したほのぼのとした憩いの雰囲気がありました。教材費が無かった当時、マンハッタンのパレードで使われたぬいぐるみやバルーンの廃材で、保育やアートの教材としていたこともありまました。バザー販売用にと鍋つかみや鍋敷きも作りまました。(ちょうど当時学園があった西27丁目辺りがパレードの終点だったのです。)  
「初心忘るべからず」です。この厳しい時期に創立当時の気持ちに立ち返り、より良い育英メソッドの育成に立ち向かう所存で有ります。これからもニューヨーク育英学園への温かいご支援とご協力を宜しくお願いいたします。 ニューヨーク育英学園学園長

岡本 徹



2020年度始業日(4月1日)が、オンライン開始でした。その時の、始業式での学園長挨拶の様子です。(コンピュータ画面より)



## NY 育英学園オンライン絵画コンクール

新型コロナウイルスの感染拡大が深まる中、各家庭では自宅勤務の保護者、自宅学習の子ども達となっていると思います。学園の先生達はオンラインであってもできる限りの努力をして子ども達の学習環境を支えていこうとしています。そろそろ学習の流れはできてきたのではないのでしょうか。子ども達のストレス軽減、鬱積した精神の緩和を考慮して絵画のコンクールを企画しました。今家庭での時間がたっぷりあるこの時期に自分の顔、父母の顔、兄弟姉妹の顔をじっくり観察していつもとは一味違う深みのある絵が完成することを願っています。

第1回タイトル：「私と私の家族、僕と僕の家族」

募集対象：NY 育英学園在籍者であれば学年不問(※休園休業も含む)

期間：2020年5月4日(月)～2020年5月24日(日)

※詳細はこちらの募集要項をご覧ください。

[http://japaneseschool.org/wp-content/uploads/2020/04/Art\\_Contest-2020-01-May.pdf](http://japaneseschool.org/wp-content/uploads/2020/04/Art_Contest-2020-01-May.pdf)

※問い合わせ先 E-mail [Art2020.nvikupei@gmail.com](mailto:Art2020.nvikupei@gmail.com)

## ～今号の目次～

- P.1 学園長よりご挨拶
- P.2 NJキャンパス全日制音楽科からのお知らせ
- P.3 NJキャンパス全日制英語科からのお知らせ
- P.4 第7回アメリカサマー留学のお知らせ  
シリーズ「NY育英学園職員ペンリレー」
- P.5 シリーズ「保育教育トピックス」#7
- P.6 NY育英学園主催第4回トリエンナーレ  
自由の女神アート作文コンクール開催のお知らせ
- P.7-8 JCSのご案内
- P.9 NY育英学園ファンドレイジング報告  
シリーズ「先輩から一言」  
4コマ漫画(作：コマタキレコ)

# NJキャンパス全日制部門 豊かな音楽性を育むために ～音楽授業での管打楽器導入～



今年度から新しく、週2回の音楽の授業の内1回を5・6年生の合同授業とし、管打楽器を取り入れることになりました。使用楽器は、フルート、クラリネット、サクソフォン、トランペット、打楽器です。昨年度末に楽器紹介のミニコンサートを開いた上で子どもたちにアンケートを配り、自分の希望する楽器を尋ねました。アンケートを見ると、第3希望まで楽器の名前を丁寧に書く子どもたちの字から、新しい学びへの興味と大きな期待が感じられるようでした。

さて、令和2年から実施される音楽の指導要領には、以下の様に示されています。

「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(中略)

(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。」

この中で、「音楽に対する見方・考え方」とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること、と定義されています。この様な力を伸ばすするため、子どもたちの音楽経験の幅を広げることが何より有効だと考えられます。これまで器楽活動ではキーボードやリコーダーに取り組んできま

したが、こうして新たに管打楽器の指導を加える事で、子どもたちは自然と音楽への新鮮な興味を持ち、さらには楽器を通して自分との新たな向き合い、人との向き合いを考えるきっかけになると考えています。

指導にあたっては、それぞれの楽器の外部指導者により、専門的な指導でしっかりと基礎を学びます。そして、各楽器の特性を考慮しながら、パート内での合奏や全体合奏に取り組み、発表の場を目指して練習に取り組んで行きたいと考えています。

合唱や鑑賞、これまでの器楽活動にない管打楽器での活動の魅力は、何より、子どもたちが楽器を演奏する事、殊に管打楽器に強い興味を持っている事です。楽器の練習に向き合う過程で「なかなか上手になれない」、

「うまくいかない」などの多くの困難に直面することは明らかでしょう。しかし、子どもたちの誰もが根底に持っている「音楽が好き」という気持ち、楽器への興味が、それを乗り越えるための大きな一助となると思います。また、個と楽器との向き合い、更にはアンサンブルによる仲間とのつながりが、集中力、継続力、自己表現力、協調性を育み、音楽的な感性を高めます。さらに、普段のそれぞれの音楽の時間には合唱や鑑賞、ソルフェージュに取り組むことでより豊かな表現力の育成へとつなげ、音楽活動の楽しさを深く感じるができると考えています。器楽授業を2学年合同で行うことで、上級生から下級

生への教え合いの場も生まれるでしょう。5・6年生の発表を聴くことで、4年生までの子ども達が憧れを抱き、目標に据えて頑張ろうとする姿も期待できます。

この様に、音楽活動の充実は、「人から見られていること」に気づいて振る舞いを正すことにより社会性を育み、思いや考えを共有する言語活動を充実させ、更なる学びへの興味関心を引き出すなど、小学校生活で大切にしたい様々なことにつながっていきます。子どもたちの笑顔いっぱいの音楽を目指し、指導者も一緒に学びを楽しみたいと思います。



お問い合わせ：NJキャンパス全日制音楽専科/阪倉 春佳

## We're on This Journey Together!



## Melissa Lauricella 先生

2007年より13年間全日制英語科に勤務され、英語科の重鎮とも言える存在です。教え始めた当時はネイティブ英語教師は3人で、日本語の話せる米国人バイリンガル教師はいませんでした。日本語を介さずにいかにESL初・中級クラスの子ども達に英語を教えるか試行錯誤しながら、その後あらゆるレベルの子ども達を教えました。NY育英学園の英語教育を第一線で支えてきたLauricella先生に話を伺いました。

2011年度にニューヨーク育英学園全日制小学部に英語の新カリキュラム（\*NY育英クロスメンソッド）が導入されてから、今年度で10年目を迎えます。今回のインタビューでは、現在は学園における英語上級レベルのクラスを主に担当するLauricella先生に、これまでの変遷や、先生自身の教育方針、子ども達へのアドバイスなども含めて話を伺いました。さらに、現在Lauricella先生の授業を受けている6年生の平林哲明君にも授業の様子について尋ねました。（インタビュー記事内 H: Hirota, Q: Lauricella, A: Tetsuaki）

## Interview with Ms. Lauricella

Q: What is the biggest difference in English education at Ikuei since you started teaching here?

A: When I started here in 2007, the English department had only three American teachers. The classes were taught with a mixed level curriculum. I taught my class with the lower level students in mind and would incorporate challenging lessons for the upper level students.

Q: That must have been difficult. Would you say the curriculum now is better?

A: The curriculum and department has definitely changed over the years. Now each class is geared toward a specific level. It caters to a detailed level-based program for the student. About ten years ago the school introduced an all-day English program. It is an English intensive program that accelerates the students' language abilities and level. It's called Friday English. I love this program.

Q: You teach the highest-level class on Friday. Tell us about your teaching style.

A: Every year, every day, every class is a new experience. I have to first understand the strengths and weaknesses of the students in the class and be creative as to how to format the lessons so all students are excited to learn. I don't just teach my class; my class teaches me how to best present each subject so that they learn the material.

Q: Then you'll be surprised how creative students can be in response to that.

A: Yes. If you provide the students with an interesting, relatable lesson they're going to not only learn the material, but want to know more about the subject. During Monday through Thursday, my students learn the foundations of the language and skills such as writing and reading. Then on Friday, the class can incorporate these skills in an

interdisciplinary way. So each week I rotate different subjects - Science, History, Art, etc. and relate it to their language learning. For example, when writing a poem, we'd study a particular poet's life to see what's behind their poetry. When we study history, we immerse ourselves in the time period by listening to the music of that period and using primary sources such as letters written by people during that time. I think it's important for students to experience what's beyond the actual textbook. That's how I steer the class. When I plan my lessons, I put myself in the position of the student, not the teacher. How would I want to learn about the particular subject? Would I find it interesting as a student? I look at the subject from the students' perspective. I want them to be excited, but most of all engaged.

Q: Many students want to get better at their English and move up to your class. How can they join your class?

A: It's important to grasp the foundation of the language by studying and working hard each day. I think it's important for students to hear the flow, rhythm and intonations of the verbal language. Some ways to do this is by watching English TV programs, such as the Disney channels or join a local youth after school activity, such as a sport or a dance program. But most of all, don't be afraid to speak the language. It doesn't have to be level appropriate. Children absorb new information quickly and easily. In our first-grade class we read books aloud to the students. They hear the words, see the pictures, and it clicks. I can't stress the importance of reading aloud to help students learn a language. Even parents can partake by helping them read at night. We're on this journey together to learn and love the language.

## Interview with Tetsuaki

Q: How do you like Ms. Lauricella's class?

A: Every time we do projects, Ms. Lauricella makes our class interesting. We just did the Civil War journal project. We wrote journals about what you would do and where you would be if you were in the Civil War. While doing this project, I learned about Abraham Lincoln: how he saved slaves and how he died, and I became very curious.

Q: Did you have to do a lot of research outside of class as well?

A: Yes, we did a lot of research at home, but it was fun, so I didn't think it was difficult.

Q: Does Ms. Lauricella make you work harder?

A: Yes. Every time she thinks of a new subject, she makes sure everybody will have fun learning it. I'm really thankful to her for that. I think she's the best teacher in my life!



Civil War journal project 発表の様子

Lauricella先生は新しいことを学ぶときはいつも僕たちが楽しめるよう工夫してくれる」と哲明君は言っています。これはまさにLauricella先生の言う、教師ではなく子どもの目線から授業を作るといったことのようなのです。一子ども達の強みや弱点をまず把握し、創造的な授業を組み立てていく。子どもが興味・関心を持てる授業ができれば、もっと学びたいと思ってくれる。Lauricella先生は、科学、歴史、芸術などの学問分野を語学スキルの向上に結びつけるだけではなく、教科書では語られない実際の資料（手紙やビデオなど）を用いて、英語で様々なことを学ぶ体験型の授業を実践しています。また、ESLから現地校と同じ英語レベルで学ぶ\*LAクラスにまで英語力を向上させるためには、まずは基礎となる文法や語彙を毎日積み重ねて学習していくこと、さらに生の英語をたくさん聞き、英語独特の流れ、リズム、抑揚を体得すること、また、絵本などの読み聞かせの重要性も伝えています。そして、とにかく間違いを恐れずに英語で積極的に話す努力が大切とのことでした。子どもが言語を学び、好きになっていくプロセスを、授業なり家庭なりで手助けするのが教師であり親であることをWe're on this journey together.「私たち（児童・親・教師）皆が共にこの学びの旅をしているのです。」と、Lauricella先生は締めくくってくださいました。

\*NY育英クロスメンソッドでは、毎日の英語の他、金曜日は丸一日英語で現地校のように学習する「金曜英語の日」を特徴とする学園のオリジナル英語教育メソッドです。現在は、学年およびレベルに応じたクラスに分かれ、ネイティブ英語教師5~7名、日本人バイリンガル教師2名がきめ細かい英語教育を展開しています。

\*クラスは第二言語として英語を学ぶESLクラス(1~6)と現地校の各学年と同じレベルの英語を学ぶLAクラス(1~6)に分かれています。学園ではLA(Language Arts)は現地校レベルのReading, Listening, Speaking, Writingを行うクラスという意味で使用しています。



ニューヨーク育英学園では、東日本大震災発生後より、被災した子ども達の為に支援活動を行なっております。震災により親を失った子ども達のための支援活動及び、ケア施設『レインボーハウス』の建設に協賛し、集まった義援金をあしなが育英会へ、寄付致しました。

また、義援金活動だけでなく、被災した子ども達と直接関わり、本学園ができる支援活動として、学園が主催する『育英サマーデイキャンプ』に東北被災地の児童2名を、

2013年夏、初めて招待しました。

あしなが育英会のご協力により、子ども達は有意義な時間をアメリカで過ごし、たくさん思い出を作ることができました。

翌年以降も継続し、

2017年度は、九州地方の被災地も対象に拡げ、さらに青少年を対象として本学園サマー宿泊キャンプへボランティアスタッフとして招待いたしました。



2018年度は日本全国の被災地を対象に拡げ小学生2名を、2019年度には小学生2名、大学11名を招待いたしました。

2020年度も引き続き『第8回日本全国被災地支援 招待企画 アメリカサマー留学』の開催を予定しており応募もいただきましたが、残念ながら5月1日に本プログラムの中止を決定いたしました。日米を含めた世界的な新型コロナウイルス感染拡大のため、日本国内でのあしなが育英会様からのご支援が難しい状態となり、この度はご招待することが難しいと止むを得ず判断いたしました。しかしながら、応募動機を一生懸命書いて応募してくれた子ども達のためにも、日本からオンラインで参加ができるようなサマープログラムができないか現在検討中です。そのようなプログラムを開催する際には、時差等について問題が解決できればそちらを日本の子ども達に提供できればと考えております。

本学園では、本企画における招待留学生の渡航費用として、8,000ドルを目標金額としてchuffed.orgにてクラウドファンディングを行っております。すでに温かいご支援を頂いた皆様、まことにありがとうございました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。



皆様のお気持ちが大変嬉しく励みになりました。本企画へのご支援は、年間を通して受け付けております。招待児童・青少年の航空券をはじめ、使用目的を指定しての寄付も可能です。NY育英学園は米国非営利団体(IRS501(C)(3))として認定されており、米国での税金控除の為の証明書を発行できます。団体や企業の皆様、在籍家庭の皆様、また本企画へご賛同いただける個人の皆様からの温かいご支援ご協力をお待ちしております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

お問い合わせ先：担当 岡田 幸子  
Phone: (201)947-4832(学園事務局)  
E-mail: invitation.nyikuei@gmail.com

職員インタビュー

### 「歌うことが大好きなのね」

幼い頃よく言われた言葉を、今は自分が教え子達に投げかける。子ども達は満面の笑みを返してくれる。

トイレに入るとずっと歌い続け出てこなかった私。祖父のお客さんが我が家に来ると「津軽海峡冬景色」「北国の春」を歌っておもてなしをするのが大好きな子どもだった。

ミュージカル、オペラ、合唱曲、宗教曲、中学高校時代あらゆるジャンルの音楽を歌い、仲間と共に様々な舞台をつくった。高校時代に初めて訪れた東京藝術大学の芸術祭で、多種多様な芸術家が集まり、溢れるエネルギーに魅了され「絶対に藝大に入る」と心に決める。しかし嬉々として入学したのも束の間、声が出なくなる音声障害に襲われる。原因も症状も人により様々で、私は歌おうとすると喉が固く締まって全く発声できず、歌手としては致命的な症状だった。同級生がオペラの授業で切磋琢磨している中、私はたったの一小節も歌うことができず、どんどん孤独の世界にいるように感じていった。「上手くなくて、よい成績を取りたい」と願えば願うほど、自分がなぜ歌うのか、歌が好きなのかさえ分からなくなっていった。焦りと不安と苦しみの日々だった。そんな苦しい気持ちを察してか、徐々に仲間が支えてくれるようになった。オペラは歌えないけれど、話す声は出る、体は動く。演劇やダンスの同好会を

作り、夢中になってパフォーマンスを行った。歌うことができないエネルギーを、とにかく何かを表現することに費やさずにはいらなかったのだと思う。声楽だけではなく他にも芸術を表現する方法を得て、歌うことを諦めずに仲間と共に卒業することができた。

大学時代の経験が、教師となった自分を大きく支えてくれている。勉強がうまくいかない、友達との関係に悩む、そんな子ども達の苦しい気持ちに寄り添い、一緒に悩む大切さを学んだ気がする。

NY育英学園で合唱部を指導するようになり、子ども達の歌声をたくさんの人々に聞いてもらう機会をつくれなかと模索している時に「NPO法人9.11風の環メモリアルコンサート」と出合った。合唱・音楽部の子ども達は、年に数回NY近郊に住む子ども達と一緒に、マンハッタンで行われるチャリティコンサートなどに出演している。昨年はNPO法人が積極的に取り組んでいる文化交流で、スペインのセビリアに赴き、現地の学校やコンサートで歌う機会にも恵まれた。滞在中子ども達の歌声から、私自身もたくさんの感動と勇気をもたらすことができた。

10年前マンハッタン校のみだった合唱部も、ポートワシントン校、ニュージャージー校、フレンズアカデミーには幼児のどれみふぁクラブと、各ランチに合唱を楽しむアフ

タースクールを開講することができた。これも音楽の大切さを知っている学園と応援してくれる同僚の先生方のおかげだ。

子ども達は自分達が歌うことで人々が喜んで勇気づけられたりすることを肌で感じてくれている。そして何より一緒に歌う仲間がいることが、彼らを笑顔にしてくれる。辛いことがあっても仲間と歌うと自然と心が温かくなる。自分自身が学生時代に仲間と飽かずパフォーマンスを続けていた時ように。音楽を通じて得た仲間、思い出は私の一生の宝物だ。嬉しいこと、苦しいこと、楽しいこと、すべてが音楽には詰まっている。その素晴らしさ、面白さをこれからも私は子ども達に伝えていきたい。



# NY 育英学園主催 第4回トリエンナーレ自由の女神アート作文コンクール



## ～入賞者発表～

NY 育英学園主催第4回トリエンナーレ自由の女神アート作文コンクールでは、

「わたしの誇り」というテーマのもと、アメリカ国内のみならず、日本、中国、ドイツ、スイスなど、世界中から700点にのぼる応募を頂きました。厳正な審査の結果、入賞した皆様を3月1日に発表致しました。作文部門、絵画部門ともに受賞者は右の通りです。なお、表彰式は3月15日を予定し100名を超える皆様にご参加頂く予定でしたが、新型コロナウイルスの余波を受け、延期とさせていただきます。

★受賞作品のすべてはNY 育英学園 HP 内からご覧頂けます。

[https://japaneseschool.org/topics/triennial\\_art\\_essay\\_contest/](https://japaneseschool.org/topics/triennial_art_essay_contest/)  
(ページ下の「第4回」をクリックしてください。)

**第5回コンクールは、  
2022年度開催を予定しております。  
次回もたくさんのご応募をお待ち  
しております。**

**(募集要項発表予定時期)**

**2022年4月ごろ**

**(応募予定期間)**

**2022年6月1日～2022年10月31日**

**※NY 育英学園 HP 上でも募集要項  
は発表されます。**

**トリエンナーレ自由の女神  
アート作文コンクール事務局**

場 所 : 8 West Bayview Avenue,  
Englewood Cliffs, N J07632, USA  
電 話 : (201)947-4832  
E-mail : Triennale.nyikuei@gmail.com

## 「作文部門受賞者」

賞	名前 (学年)	タイトル	
グランプリ	自由の女神 日本語検定委員会賞 栗田 夏帆 (小1)	「わたしは五人のおねえさん」	
小学校 低学年の部 (1・2年)	金賞	伊藤 由宇葉 (小2)	「うたが大好き」
	銀賞	丹羽 葵 (小1)	「たいせつにおもうきもち」
	銅賞	ドネリー 瀬夏 (小2)	「ぼくの三つのピンバッジ」
小学校 中学年の部 (3・4年)	金賞	笠間 リツ (小3)	「スペインのステージで」
	銀賞	杉山 アリッサ (小3)	「私にとってのチェロ」
	銅賞	羽生 太陽 (小4)	「もも太ろう一座」
小学校 高学年の部 (5・6年)	金賞	ドネリー 優希 (小5)	「僕の本たち」
	銀賞	増村 美帆 (小5)	「歴史をもったなわとび」
	銅賞	橋本 瑞希 (小5)	「ぼくのまほう」
		中原 琉貴 (小6)	「ぼくの性格」
中学校の部	金賞	コンジダイン 敬 (中2)	「ババニン」
	銀賞	藤村 佳伶 (中1)	「継いでいくカタチ」
		倉本 武蔵 (中2)	「家族」
	銅賞	大北 明里 (中2)	「私が元気でいられる理由」
高校の部	金賞	(該当者無し)	
	銀賞	ベルタキーニ コーナ (高2)	「紙一重」
	銅賞	皆川 梨子 (高2)	「『当たり前』は本当に当たり前か？」
		(該当者無し)	
特別賞	小川 桜 (小4)	「私のスライム」	
	コットマン ヘレナ (中2)	「白いハンカチ」	

## 「絵画部門受賞者」

賞	名前	タイトル	
グランプリ	自由の女神 平山都夫大賞 菅原 ノヴァ (小1)	「ピアノだいすき」	
幼稚園児の部	金賞	関司 蒼衣 (年中)	「うみでたのしくあそべたね」
	銀賞	木村 アレクサンダー (年長)	「あれつくすのえ」
	銅賞	武蔵 雅彦 (年少)	「ステゴサウルスのくるま」
小学校 低学年の部 (1・2年)	金賞	関司 智哉 (小1)	「いわさきやまのカブトムシと クワガタムシ」
	銀賞	佐京 輝名 (小1)	「バレエは私の大切な事」
	銅賞	寺井 俊太郎 (小2)	「アメリカでがんばっていること」
小学校 中学年の部 (3・4年)	金賞	関司 実早紀 (小4)	「サツマイモほり」
	銀賞	マーテル マリス 実 (小3)	「犬が手じゅつしたけど 14さいになりました」
	銅賞	木村 幸来 (小3)	「かがやく絵」
小学校 高学年の部 (5・6年)	金賞	マーテル リディア 望 (小6)	「宇宙飛行士適性 AAA 判定」
	銀賞	石川 潤之助 (小6)	「エイサーの夏」
	銅賞	マーテル エリアヌス 歩 (小5)	「日本の文化、とくにかぶき」
中学・高校の 部	金賞	森田 陽菜 (高3)	「おかえり」
	銀賞	山本 茉莉沙 (中1)	「私が奏でる音色」
	銅賞	新保 結希 (高3)	「道」
特別賞	久保 瑞仁朗 (年中)	「ぼくのかぞく」	
	三村 悠夏 (年長)	「わたしこんなに大きくなったよ」	
	小俣 結凜 (年長)	「じてんしゃにのれた」	
	志方 晴紀 (小2)	「the vases」	
	山本 琉生 (小3)	「チェロをひくぼく」	
	佐藤 創 (小3)	「友だちがふいているリコーダー」	
	水谷 雅 (小4)	「色いろ、筆で、かなでよう」	
	鈴木 健斗 (小4)	「ぼくとトーテムポール」	
	メンク 光 ヴィクトイリア (小5)	「かっこいいヨイサーー!!」	

※敬称略/学年は2019年度の日本の学齢

## Manhattan キャンパス (マンハッタン)

## 育英ポートワシントン校 (ロングアイランド)

### New Jersey キャンパス (イングルウッド・クリフス)

8 West Bayview Avenue, Englewood Cliffs, NJ 07632  
Phone: (201)947-4832 Fax: (201)944-3680  
E-mail: [Info.nyikuei@gmail.com](mailto:Info.nyikuei@gmail.com)

マンハッタンからバスをご利用の場合  
★Port Authority Bus Terminal から  
NJ Transit →156 番  
Coach USA →9 T A 番  
★George Washington Bridge Bus Terminal から  
NJ Transit →186 番  
Coach USA →9A 番  
詳細は学園ホームページをご覧ください。

### 全日制デイスクール 幼児部/小学部

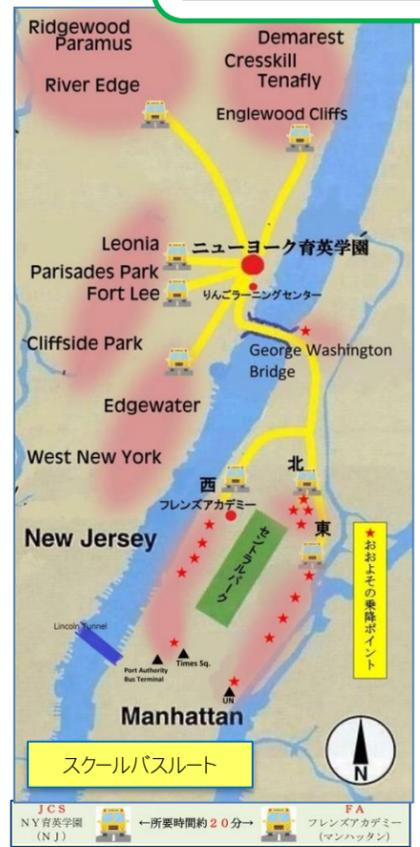
E-mail: [DaySchool.nyikuei@gmail.com](mailto:DaySchool.nyikuei@gmail.com)

**幼小一貫全日制教育**  
日本の文部科学省のカリキュラム準拠+ESL&現地校英語

**(幼児部) NY 育英ブリクソメソッド**  
毎日の英語の時間+金曜日のバイリンガルの時間 (年長・年中)  
英語でのアートの時間

**(小学部) NY 育英クロスメソッド**  
毎日1時間の英語+金曜日1日英語=週10コマの英語  
1週間の1/3が英語学習  
充実の7段階の習熟度別の英語クラス編成  
ネイティブレベルは現地校のランゲージアーツの教科書を使用

- 幼児部**  
年少組、年中組、年長組、  
ゆり組 (ウェイトニング特設クラス)
- 小学部** 小学1年~小学6年
- 様々な放課後クラブ活動**  
(幼・小) サッカークラブ、水泳クラブ、  
ダブルダッチクラブ、ダンスクラブ、体操クラブ  
(幼児部のみ) ボール遊び、ベビーシッター  
(小学部のみ) 野球クラブ、ボードゲームクラブ、自習室



### アフタースクール

E-mail: [AfterNJ.nyikuei@gmail.com](mailto:AfterNJ.nyikuei@gmail.com)

幼児の教室 (つばめクラス)  
小学生の国語・算数教室  
E S L (年少~小学6年)  
ピアノ教室 合唱部  
書道教室 ダブルダッチ (チーム)  
幼児おんがく教室 (年少~年長)

**いろはにほんご教室**  
→E-mail: [IROHA.nyikuei@gmail.com](mailto:IROHA.nyikuei@gmail.com)

### 育英サタデースクールニュージャージー校

E-mail: [SatNJ.nyikuei@gmail.com](mailto:SatNJ.nyikuei@gmail.com)

幼児部 (年中、年長)  
・ベビーシッター  
小学部 (小学1年~小学6年)  
・野球部、サッカー部、卓球部、室内球技部、アート部、  
ダンス部、書道部、自習室  
中学部 (中学1年~中学3年)  
・中学部活動、書道部、自習室  
高等部 (高校1・2年)  
・国語・数学コース  
・社会科 (現代社会・日本史) ※選択制として導入  
**育英ホームスクールシステム (準拠コース)**

### 育英サマーキャンプ

E-mail: [SummerCamp.nyikuei@gmail.com](mailto:SummerCamp.nyikuei@gmail.com)

サマーキャンプ (宿泊) サマーデイキャンプ  
サマー野球教室 サマーいろはにほんご教室

### 育英サンデースクール

E-mail: [SunNJ.nyikuei@gmail.com](mailto:SunNJ.nyikuei@gmail.com)

幼児部 (年中、年長)  
・(幼小同室にて) ベビーシッター・自習室  
小学部 (小学1年~小学6年)  
・(幼小同室にて) ベビーシッター・自習室  
**育英ホームスクールシステム (準拠コース)**

### 日曜プログラム

**縄跳びクラブ**  
日曜ピアノ教室  
日曜バイオリン教室  
日曜野球教室 (春・秋)  
**自習室+ (ぶらす)**  
日ようびは日本語であそぼう (2歳半~年長児)  
→E-mail: [Nichinichi.Asoho.nyikuei@gmail.com](mailto:Nichinichi.Asoho.nyikuei@gmail.com)  
いろはにほんご教室  
→E-mail: [IROHA.nyikuei@gmail.com](mailto:IROHA.nyikuei@gmail.com)  
日曜 寺子屋アカデミー  
(書道、そろばん、アート)  
→E-mail: [Terakoya.nyikuei@gmail.com](mailto:Terakoya.nyikuei@gmail.com)

### 育英スキーキャンプ

E-mail: [Ski.nyikuei@gmail.com](mailto:Ski.nyikuei@gmail.com)

日帰りスキー教室 (12月~2月)  
宿泊スキーキャンプ (12月、2月)

### フレンズアカデミー (アッパーウエスト)

### 全日制プリスクール (NY州認可) たんぽぽ幼稚園

E-mail: [friends.nyikuei@gmail.com](mailto:friends.nyikuei@gmail.com)

■**幼児部**  
年少組、年中組、年長組

### 週日クラス (月曜日~金曜日)

E-mail: [Friends.nyikuei@gmail.com](mailto:Friends.nyikuei@gmail.com)

■**親子教室ひよこ組 (およそ1歳~3歳未満)**  
■**幼児教室いちご組 (2.5歳以上~年長児)**

### アフタークラス

■**いろはにほんご教室**  
日本語基礎教室 (3歳~年長児)、国語教室 (小学1年~6年)  
国語算数教室 (小学1年~6年) Japanese Lesson for Adult

- 語学部門**  
英検対策講座 (1次・2次)  
プライベートチュータリング (小学1年~6年)  
プライベートレッスン (大人)
- 書道教室 (4歳~大人)**
- 音楽教室<ピアノ・バイオリン・ギター> (3歳~大人)**
- どれみふぁクラブ (3歳~年長児)**
- うんどうクラブ (3歳~年長児)**

### ウィークエンドスクール (土・日)

E-mail: [WeekendFriends.nyikuei@gmail.com](mailto:WeekendFriends.nyikuei@gmail.com)

■**幼児教室 I・II (3歳~年長児)**  
■**いろはにほんご教室**  
日本語教室 (小学生以上)、国語教室 (小学1年~6年)  
国語算数教室 (小学1年~6年)

■**語学部門**  
英検対策講座 (1次・2次)  
■**音楽教室<ピアノ・バイオリン・ギター> (3歳~大人)**

### 育英ホームチュータリング (NYエリア受付)

個別カリキュラムコース  
幼児訪問コース 英語指導コース 書道コース  
E-mail: [friends.nyikuei@gmail.com](mailto:friends.nyikuei@gmail.com)

### その他のイベント

- 季節プログラム**  
春→親子スプリングスクール  
夏→親子サマー、幼児サマー、小学生サマー  
冬→幼児ウィンタースクール
- 日ようびは日本語であそぼう (2歳半~年長児)**
- 子育て支援広場「ぼっぽ」 (未就園のお子さま)**  
E-mail: [Kosodate.nyikuei@gmail.com](mailto:Kosodate.nyikuei@gmail.com)

### 育英サタデースクール マンハッタン校

幼児部 (年中、年長)  
・ベビーシッター  
小学部 (小学1年~小学6年)  
・合唱部、リズムダンス部、書写部、自習室  
中学部 (中学1年~中学3年)  
・書写部、自習室、アドバンスクラス  
**育英ホームスクールシステム (準拠コース)**



Location1: Friends Seminary  
Location2: Grace Church School  
Phone: (201)947-4832  
※土曜日のみ: (201)637-3927 (201)449-4501  
Fax: (201)944-3680  
E-mail: [SatM.nyikuei@gmail.com](mailto:SatM.nyikuei@gmail.com)

週日・週末ともに  
マンハッタン内で様々な日本語の  
プログラムが用意されています。

■**育英サタデースクール ポートワシントン校**  
幼児部 (年中、年長)  
・ベビーシッター  
小学部 (小学1年~小学6年)  
・漢字検定、総合体育教室、  
音楽部、毛筆、硬筆、自習室  
中学部 (中学1年~中学3年)  
・漢字検定、音楽部、毛筆、硬筆、  
アドバンス (画・彫)、自習室  
高等部 (高校1年~高校2年)  
・漢字検定、音楽部、毛筆、硬筆、自習室  
**育英ホームスクールシステム (準拠コース)**

**Kuei Saturday School of Port Washington**  
Location: Carrie Palmer Weber Middle School  
**Port Washington Office After School**  
8 Maple Street #6,  
Port Washington, NY 11050  
Phone: (516)767-3139  
土曜日のみ: (516)455-3871 (201)362-5678  
Fax: (516)767-2753  
E-mail (サタデー): [SatPW.nyikuei@gmail.com](mailto:SatPW.nyikuei@gmail.com)  
E-mail (アフター): [AfterPW.nyikuei@gmail.com](mailto:AfterPW.nyikuei@gmail.com)



## 新型コロナウイルス非常事態下におけるオンライン保育授業実施中!

現在、右記のようにオンラインでの保育と授業をすべての部門で実施中です。現在は休止となっているプログラムも多いので、ご興味がある場合は、まずは各部門にメールにてお問い合わせください。

**育ちと学びを保障する**  
新型コロナウイルス感染拡大を受け、ニューヨーク育英学園においてもすべての部門が現在クローズとなっております。そのため、全日制を皮切りに、全部門オンラインのリモート保育授業に切り替えて実施しております。すべての部門において共通なことは、  
・双方向ライブで朝の挨拶から開始  
・画面を通して友達や先生と交流  
・NY 育英職員作成のオリジナル動画 (ダンス、絵本読み聞かせ、紙芝居、リズム遊び等)

NJ キャンパス全日制幼児部では単なるオンラインでの保育ではなく、子ども達の1日の生活リズムを作ることを大切に、無理なく無駄なく育むプログラムを実践しております。また小学部では、教室で受ける授業と変わらない雰囲気や大切にしつつ、興味をもって学習できるよう工夫を凝らし、体育や英語など様々な教科を時間を調整して可能な限り提供しています。さらには全日制ならではの専科 (音楽、体育、書写など) を取り入れた動画もたくさん制作中です。アフタースクールや週末のサタデー・サンデースクールにおいても、週一の学校ではありますが、子ども達の貴重な日本語での学びの機会を提供すべく、全日制と同様にライブや動画を取り入れたオンライン保育授業を提供し、この非常事態下においても、できる限り平常時と変わらない教育保障に挑戦しています。

### 一時帰国中の児童も日本から参加

お勤め先の退去命令や諸事情の為に日本へ一時帰国されたご家族から「時差があるのは分かっているが、是非学園のオンライン授業を受けたい」との申し出があり、数名の子ども達が日本から参加しています。お住まいの学区では学校閉鎖中の今、まだ、オンライン双方向の授業が展開されていないとのこと、日本での取り組みが充実するまで、学園の取り組みが少しでもお役に立つようであれば、これほど嬉しいことはありません。

### 日本の学校へオンライン授業の紹介も

また、学園では全日制小学部の先生方が日本の教育委員会や教育大学付属小学校などの要望に応える形でオンライン授業講習会にゲストスピーカーとして招待を受け、現在実施中のオンライン授業の取り組みを紹介したり、オンライン授業の課題や問題点を具体例を示しながら伝える活動も実施しました。4/30に行われた講習会では、日本全国のみならず、シンガポール、中国、イタリアなどから約370名の先生方の参加があり、学園の取り組みが日本の学校での参考にできれば幸いです。



### 特別体験入園入学を導入

「渡来してみたら学校がすべてクローズしていて手続きすらできない。」  
「見学もできないけれど一体どの学校を選んだらいいのだろう。」  
といった、お子様の教育についてお悩みであつたら迷っていたりという皆様のために、非常事態下を鑑みて、このオンライン期間のみの特別体験入園入学制度を設けました。私どもの豊かで充実したカリキュラムに基づく保育と教育を受けていただける絶好の機会です。条件は以下の通りです。

- \* ご希望の学年や部門に空きがある場合に限りです。(定員までは受け付けます)
- \* 基本的には、オンライン終了後に入園入学希望の方をお受けします。
- \* 特別体験入園入学に際して、事前の審査試験はございません。ただし、オンライン終了後に正式に入園入学をご希望の場合は審査試験を実施します。

お問い合わせはご希望の部門までEメール  
をお願いします。

お問い合わせ/NJ キャンパス事務局



奨学金基金&寄付金

企業の皆様

A&E CLOTHING CORPORATION  
AMAZON.COM, INC.  
ANDO CHIROPRACTIC, LLC  
SUMITOMO MITSUI TRUST BANK(U.S.A) LIMITED  
TIAA CHARITABLE, INC (NATSUME FUND)

奨学金基金&寄付金

個人の皆様

MR. KURIHARA, ICHIRO & MS. YASUKO  
MR. OKAMOTO, TORU  
MR. TAIRA, HIDEAKI

1/6/2020~3/23/2020

皆様のご支援に  
心より感謝を申し上げます

全てのご寄付は米国での  
税控除の対象となります。  
All contribution is tax deductible.  
501(c)(3)organization

本学園ホームページ  
JAPANESECHOOL.ORG から  
PayPalをご利用できます。

学園グッズ&カレンダー

MR. HIRAOKA, HIRONORI  
MR. HOSHINO, TAKASHI



お問い合わせ/ファンドレイジング担当

シリーズ~先輩から一言~

ふくざわ ひでのり  
福澤 秀憲さん

「自信と臆する事なく挑戦する心を育ててくれた育英学園」

1999~2000年、当時小学2年生だった私は父の仕事でアメリカに移住する事になりました。



一番後ろの列の左から2番目

数カ月間はロサンゼルスに住み、その後ニュージャージーへ移り ニューヨーク育英学園に転入することになりました。

登校初日、緊張していた私を先生やクラスメイトの皆が笑顔で温かく迎え入れてくれた事がとても嬉しかったのを覚えています。クラスメイトのほとんどが幼稚園の頃からアメリカにいる方ばかりで、”日本の学校ってどうなの?” ”ポケモンって流行ってる?”と質問攻めにあいました。学年問わず、生徒の皆さまや先生方が私を受け入れて下さり、すぐに沢山の友達が出来ました。

生徒主体の授業も私にとって新鮮で、お互いを尊重しつつ意見を言い合える良い環境で学ぶ事ができ、放課後は部活動のサッカーで汗を流し、毎日がとても楽しかったです。

日本の教育の仕方では、”みんなと一緒にすることが正しい”という事が多いように思います。育英学園では先生方が個人と向き合い、個性を受け入れ、目立つ能力を更に伸ばしてくれた事が今の自分の軸に繋がっています。

学園生活で1番の思い出は、学園祭で”Many Moons”という演劇をした事です。台本を覚えて、何回も練習したり、資料を読みながら小道具を作ったりと、本番が近づくにつれてワクワクしていました。私は本番で何度もミスをしてしまいましたが、周りの皆が助けてくれたおかげで無事終わることができました。先生をはじめ、全員で一つのモノを作り上げた達成感は格別でした。一つの目標に対して、皆で考え作り上げていくとても良い経験でした。

楽しかった日々はあっという間に過ぎ、登校最終日は皆と離れたくない、日本に帰りたくないと大泣きした事を覚えています。今までのどんな卒業式よりも別れが辛い日でした。育英学園は間違いを臆せず、恥らわずに自分を表現できる場所です。

プロフィール

2014年、法政大学理工学部機械工学科航空操縦学専修卒業。株式会社AIRDOに入社。ボーイング737のパイロットとして乗務。

日本人は頑張っている姿を他人に見せることを恥ずかしがる傾向があると思います。しかし育英学園は互いの努力を素直に賞賛し、切磋琢磨できる環境でした。

私は現在、AIRDOという日本の航空会社でボーイング737のパイロットをしています。主に本州と北海道の各地を結ぶ国内線と、アジアへの国際チャーターを行なっています。日々変わる気象条件の中、たくさんのお客様を目的地まで安全に送り届けること、ジェット旅客機を自分の手で操縦するということがとてもやりがいを感じています。また巡航中、日本の四季折々の景色を上空から眺めることが出来る事もこの仕事の醍醐味と言えると思います。

私がパイロットを志したのは、幼い頃から父の仕事や、旅行で飛行機を利用している時に”こんな大きな飛行機を飛ばしてるパイロットかっこいいな!!”と思ったことがきっかけでした。自分の将来を考えていくにつれて漠然としたパイロットへの憧れから夢に変わり、パイロットの訓練ができる大学へ行くことを決意しました。

日々運航する中で大切にしていることは、飛行機は1人で飛ばしているのではなく、地上職、整備士、運航管理者、客室乗務員など多くの方々と協力して成し得ているということです。その為皆の力が最大限に出る雰囲気大切に、意見を出し合う様に心掛けています。

育英学園での一人一人に向き合い、個人の意見を尊重しながら一つの目標を皆で成功させるという経験が、今の私の軸になっています。いつか思い出の地、ニューヨークに、自身のフライトで降り立つことが目標です。



- ① You have entrance ceremony in spring in Japan! Congratulations!
- ② Thank you!
- ③ I learned a song at school!
- ④ Japan
- ⑤ U.S.A.



- ⑥ When cherry blossoms bloom, I'll be a first grader.
- ⑦ Can I go to school by myself?
- ⑧ Entrance Ceremony



- ⑨ It's a nice song but you can't sing it in the U.S.
- ⑩ We won't become a first grader yet when cherry blossoms are in bloom.
- ⑪ I see. Then, maybe you can sing like this in the U.S.



- ⑫ When cicadas start singing,
- ⑬ I'll be a first grader.
- ⑭ That's a good idea!
- ⑮ Zing-zing-zing!

BY コマタキコ (KIREKOKOMATA)